

映画と講演

「映画をとおして人権を考える」

誰もひとりでは生きられない。



親と暮らせない子どもたちと、隣り合う保育士たち。そして、子どもとふたたび暮らすことを願う親。ある児童養護施設の日常を追う8年間のドキュメンタリー。

刀川和也監督作品 企画：稲塚由美子 撮影：刀川和也・小野さやか・大澤一生 編集：辻井 潔 構成：大澤一生
プロデューサー：野中章弘・大澤一生 製作・配給：アジアプレス・インターナショナル Asiapress 日本 / 2011 / 50 / カラー / 日本語 / 85分 / ドキュメンタリー
山形国際ドキュメンタリー映画祭 ニュー・ドックス・ジャパン部門招待作品
文部科学省選定（青年向き・成人向き）／厚生労働省社会保障審議会 特別推薦
第9回文化庁映画賞・文化記録映画部門大賞／第37回日本カトリック映画賞

www.tonaru-hito.com

第1回人権問題講演会（入場無料） *申込み不要

8月2日(日)13:30～16:30 コムズ 5階 大会議室

映画：「^{とな}隣^{ひと}る人」2013年ドキュメント作品

講演：映画監督 ^{たち}刀川 ^{かわ}和 ^{かず}也 ^やさん

後援：松山市教育委員会・松山市公民館連絡協議会・松山市人権教育推進協議会
愛媛新聞・NHK松山放送局・南海放送・テレビ愛媛・FM愛媛・あいテレビ
愛媛朝日テレビ・愛媛CATV・リビングまつやま

Do 主催：NPO法人「Do」
(松山市委託事業)

一緒にごはんを食べ、お手伝いをして、遊んで、絵本を読んでもらう。
時には怒って凹んで泣いたって、同じ布団で寝れば同じ朝がくる。
壊れた絆を取り戻そうと懸命に生きる人々の、平凡だけど大切な日々の暮らし。

地方のとある児童養護施設。ここでは様々な事情で親と一緒に暮らせない子どもたちが「親代わり」の保育士と生活を共にしている。マリコさんが担当しているのは、生意気ざかりのムツミと甘えん坊のマリナ。本来、親から無条件に与えられるはずの愛情だが、2人にとっては競って獲得しなければならない大事な栄養素。マリコさんを取り合ってケンカすることもしばしばだ。そんなある日、離れて暮らしていたムツミの母親が、ふたたび子どもと一緒に暮らしたいという思いを抱えて施設にやってくる。壊れた絆を取り戻そうと懸命に生きる人々の、平凡だけど大切な日々の暮らしは今日も続く。



知られざる「児童養護施設」で紡がれている“大切な”日常。
ただ寄り添うカメラが見つめ続けた、色鮮やかな映像スケッチブック。

「子どもたちと暮らす」ことを実践する児童養護施設「光の子どもの家」の生活に8年にわたって密着し、その日常を淡々と丁寧に描いたドキュメンタリー。



「私の全存在を受け止めて！」と不安の中で揺れ動き続ける子どもたち。自らの信念とその重さに格闘しながらも、子どもに寄り添い続けようとする保育士たち。離れて暮らす子どもとふたたび生活できるようになることを願い人生を修復しようともがく実の親など、生命力に溢れる人々の姿が瑞々しく描かれ、どこにでもありそうな日常なのに、観る者を笑いと涙、人と人とのぶつかり合いの温もりで包み込む。

監督はフリージャーナリスト集団「アジアプレス・インターナショナル」に所属し、フィリピンやインドネシア等アジアの児童問題取材してきた刀川和也。延べ8年に渡る撮影を経て「隣る人」を完成させた。